京城日日新聞　（一）　第八十六號　水曜日　大正九年九月二十九日　（大正九年七月一日第三種郵便物認可）

京城日日新聞

社説

元山暴動事件　獨立運動者の使嗾　排日思想の勃發

去二十三日午後十時より元山に於ける鮮人の暴動起れり、即ち元山に於ける長老派經營保光學校生徒及公立普通學校生徒約五百名は二十三日午後九時頃より元山市外の廣場に集まり悲憤慷慨の演說をやり、夜に入り假裝行列をやり騷ぎ廻りし所へ漸次加はり約一千の群衆となり、此群衆は元山市に繰込み、内地人の居所を襲ひ、戸別的に石を投げ瓦礫を投じて破壞し更に殖產銀行、東拓出張所、郵便所、巡査派出所等を襲ひて之が破壞を企て約五十戸の破損を見るに至り、元山府は一時戰場の狀態を呈せり、幸ひ官憲と我在鄕軍人、消防隊等繰出して漸く鎭定せるも逮捕されたるもの約六百名に達せり、此六百名は一々取調ぶると共に證據不充分なるものは即時放還せるも、首謀者と認むべきもの約百名以上に達する模樣なり、此暴動の動機は學校生徒の假裝行列の遊戲に漸次が加はりて終に此大事件を惹起すに至りたりとのことなるも、鮮人市街には少しも危害を加へずして内地人の市街のみを襲ひ、内地人の官署と民家を襲擊したるに徵すれば排日の氣風の勃發と見るが至當なり、從って獨立運動者の煽動と見るが至當なり、目下其筋にて首謀者取調中との事なれば、不日其動機及原因は明かになることゝ稱するが今日迄の調査に依れば決して一場の騷擾より出でたるものにあらず、又最近内地人として別に鮮人の惡感を刺戟せる原因も無き樣にして、畢竟彼等鮮人子弟の胸に於ける排日思想が獨立運動者に煽動されて此大事件を惹起せるものと論斷するを得べし、更に傳ふる所に依れば此暴動の背後には某宣教師の使嗾せるものありと、要するに排日派と獨立派の煽動に依ることは疑ひを容れざる所なり、此に於て吾人は此事件を輕々に看過する能はざるなり、一時的何等かの刺戟原因に依りて起りし暴動ならば、深く憂慮するに足らざるも、之が獨立派の煽動に係る排日思想の勃發とせば、將來に於ても何等かの動機あらば何時斯の如き暴動突發せずとも限らず、又獨立派と排日思想派は元山方面に於ける特產物にあらずして今後は朝鮮全道に瀰漫し居るを以て、元山の此暴動は各地の獨立派や排日派を刺戟して各地に於ても是等の暴動を惹起せずとも限らず、斯の如く觀察すれば、今回の元山暴動事件は實に鮮人の精神惡化の結果にして頗る惡性のものにして又慢性的のものと言ふべく、又特定的のものにあらずして、普遍的のものと云ふべく、當局者は意を此に致して將來に備ふると共に各地内地人團體に於ても相當の警戒と共に一に備ふる準備の必要なりと信ず、敢て官民の注意を喚起せんとす。

戰後の歐米（十五）

木村雄次

佛國はニースに一泊リオンに二泊巴里に八泊仕り候がリオンの木島領事の語らるゝ所によれば同地の絹織業の如きは復員者施後も猶人員不足の爲め作業の行はるゝは戰前の六割に過ぎざる由然れども千九百十六年より毎年同市に開催せられし世界的見本市場は意外の成功を得昨年の如きは賣上高七億法に對し今年も頗る盛況にて來年よりは物品の種類によりて年二回に開催の事と相成り候由此の企ては獨り佛國の商品を居ながら世界に紹介し得るのみならずリオン附近ローン河畔一帶の地は絹織業化學工業等の中心地にてもあれば世界各國の製品を毎年此地に展覽するは同時に佛國の工業に國際的刺戟を與へ其の向上を促すの機會とも相成り申すべく誠に好施設と存じ候戰後貿易の發展に志す我が國朝野の人士は宜しく此の施設を研究して何等かの企てあらまほしくと存ぜられ候小生の同地に至りし頃は既に見本市も終了致し居り候らひしがローン河畔に多數の西米突平方位の木造平家併列致し居り候がこれこそ見本市の賣店にて或ものは著々コンクリート造りに改築せられつゝあるを見受申候

リオンには三井、三菱、茂木、久原等或は支店を開き或は出張員を派し主として生絲輸出等の職務に勵み居られ候へども近時はフランの暴落と片爲替の爲金融逼迫の如くならず少からざる不便を感じ居らるゝやに見受け申候固より此の地には正金銀行の支店永年開設せられし處には候へども近時は邦商銀行も二三の出張員を此地に派し多少は貿易金融に貢獻致し居らるゝやに存じ候該地に於てはクレジ、リオネ其他二三の銀行につきフランの將來に關する意見を求め候處孰れも將來は暫く措き目先は漸落の歩調を取るべしとは衆口の一致する處に御座候

巴里にては佛蘭西銀行、クレヂリオネー、ソシエテ、ジエネラル、日佛銀行等を訪問し佛國經濟界の將來に關し意見を求むる所ありしに多くは佛國當局の戰時財政が必ずしも巧妙ならざりしを遺憾とし今日の外國爲替市場に於ける法の暴落も内地物價の暴騰も之れに歸せんとする風之れ有り候へども今後はアルサス、ローレンも恢復せられて鐵產額は激增すべく佛國が必ずや復興の業を遂げて依然として世界に於ける一大勢力たるを疑はざるものゝ如くに御座候同國の社會問題の將來はサンヂカリズム誕生の地にてもあり且つ近時極端社會黨の運動殊に激烈なるものあり人多く其の將來を危むと雖も小生の私見は佛蘭西の六割は穩健なる農民なるの故を以て必ずしも憂ふるを用ゐずと申居り候へども論據固より薄弱にして敢て人に聞ふす可からずと存じ候然し其の後の新聞紙によれば此度の總選擧にはクレマンソーを助くる共和黨一派は大勝を博し極端派は甚だ振はざる趣に御座候但し佛國の爲最も遺憾なのは同國が依然として人口減少の傾向を辿りつゝあることにて避妊の風は上流より中流へ中流より下流へと漸く浸潤して拔くべからずブリアンの如きは「佛國人よ、汝死を恐れざるに何ぞ生を恐るゝや」なぞと絕叫して頻りに人口增加運動を試み居り申し候

戰後の復興事業には資本と勞働の必要なるは盡し言を俟たざる處佛國が此點に於て一大缺陷を有するは同情に堪えざる際と存じ候されば戰後の跡片付けには朝鮮人などを使用致され居り候が之れ等鮮人は巴里に存する朝鮮獨立政府の周旋によるもの由此獨立政府なるものは巴里に於て盛に反日本の宣傳を試み居り申候其宣傳の小冊子は巴里の書籍店には到る處に之れ有り小生も一法款じて一冊購ひ置き候間歸朝後當局に供し得るの機も之れ有る可くと存じ候

劍道本心一刀流

日本武德會代表劍道師範　荒木榮山

武士道鼓吹談

一

體操力全身平等の事とは劍道の敎育より出る也先づ太刀を持ちて演眼に構へたるは双手の小指と藥指に半分とを以て竹刀の柄を握り直立して全身に力を平均せしめ持ちたる竹刀の柄許より切先迄全身の力を移し夫れより進退自由千變萬化するとも形を失はず心術共に錬かしむる事也、英氣を養ふの近道は劍道を以て體を鍊るにあり、國家を護ふとは身體の完全にありとは即ち身體を基礎とするに在り試に建築物に譬ふれば鐵骨煉瓦を以て築するとも地形確かなれば永久に保持する事叶はず、是即ち國家の地形を身體なりと謂ふ所以地體育の道程とは體育中に有る者木のうちに枝を撓め曲りを直うせば眞正の幹となり得る事也以下は武士道鼓吹中我流の精神及一子相傳中より拔萃して記載し、推ふるに際當一將中等が工夫勝負の一節をも述ぶべし。先づ我身を捨て敵に對せば敵に負くるも我心を以て敵に勝つ時は何國我より上手の敵たりとも勝たずと言ふ事なし

此心持にて山路にて鍛へ澄さん [illegible]

[illegible] 形に負て心にて勝と言ふ事也我が形の内にて面と右手とは捨てざる樣にかこひて其外身は敵に討せんと捨る心持ちなり▲敵を討つは此流際見立る處の眼の人見を縦にても横にても勝逢にても切るべし其切太刀餘りて即ち敵の太刀止る樣に太刀を使ふべきなり▲未だ敵と戰はざる前に我と我心にて我身を能く捨て扨て其以後に立合ひ居合せて戰ひを始める亦第一也▲君臣の勝と言ふ事行り能く我身を捨て心にて勝つは敵と戰ふ爲に臣下也此心にて敵をば不入を使ふ如く何共思はずして敵を我勝の下へ呑込み我は主君の位を成る也故に自然と敵に疑ふ心有る時は恐る事疑ふ事無き故に餘力一流は左を捨て右にて勝と言ふ事此故也▲良將ずして變化すべし二度迄は仕合は二度不誅と謂ひ同處を二度討た致す可事、若し三度に及ぶ事有る時は負はざる樣に間を遠く構て惡に傷餘る處を勝つ可き也▲兩軍一勝とは太刀にて切と突と二つ也切と討り覺えたるは惡く突とばかり覺えたるも惡しき事也▲敵の不意を勝つ事諸流にあれども本流は不意に三段在り一ツの不意は敵を詐き表裏を以て勝つ事なり是惡しきなれ共不意は叶はざるものなり亦不意は一度討たずれば其歸る處に敵の氣動く物にて其動く處に乘じて勝つは是上手の位なり亦一の不意は我も覺えずして自然に勝つ事なり是は怪我の勝の樣なれども誠の如くの勝と言ふは此意なり總じて覺えず勝ちたるは名人の勝なり▲戰ひに望んで勝たんとするは下手にて負ざる樣にするのは上手の心にて其負ざる樣にとする處を敵は必ず乘じて討ちたがる者也其內にて必ず敵に誤りある也其隙を見て勝つ時は危ふからず隨と言ふに似たり隨に勝つと言ふにては無く此時唯負ざる樣に我を離へて敵が暮らする處にて間を拔いて敵をせむる事なり

政局の新重心

野黨聯盟の機運熟す

▲憲國の紛擾は寺內內閣の成立以來の問題たりしと雖、不幸大養氏の外觀入にて一時兩者の間を疎遠せしむるに至り、徒らに超然內閣の生存、續々政友會の復活を見るに至り、昨今時局益重大なる今日

▲國政の恣慾　前古未曾有の醜體を呈しつゝあるは心あるものゝ顰蹙とする所なり。而も不當の聯盟にあり二百八十の官選議員を擁し絶黨の勢力を以て政權に嚙りつきつゝあり。在野黨にして徒らに其の行掛りと感情に制せられて

▲相率譲するが如くんば到底原內閣の死命を制し難きのみならず、限りに內閣の自由退卻を俟ずとも [illegible] のことに屬するが故に寧ろこゝに憲國無所屬議員中各派の堅實なる提携聯盟の勢力を形成し以て內閣を危殆するに如かずとし各派有志の間には寄り々意見の交換、感情の疏通を計る爲に盡力せるものあり、此運動は加藤大養兩黨としては直接之に係はりたるの形跡なきも、今日の勢を以て進まば畢竟冬期議會迄には聯盟の名實共に相備はるに至り、政局に一大新重心の發見すべき形勢にあり。

政界茶話

白髮翁

◇近頃三浦に遇つたと？アノ男も近來はスツカリ原大明神ちやノー昨年は書畫骨董品の要擇を原に贖させ、此頃は小石川の屋敷を神田餘藏に買はせた、之も原の口入れちやといふ。地獄の沙汰も金次第ぢやネ

◇何か變つた事を謂ふて居たか、ウム、原一人で天下の持ち切りと黨も大いにやるべしちやと謂ふたいふ譯に行くものぢやない、在野かハツハヽヽアノ狸老爺がノー

◇世間では餘程アノ男を買ひ被つて居るが、アレは腹藏的の長州人ちやよ、先づ佐々木安五郎と擔へば肺の折れる位の程度のものぢや

◇其豪傑がる裏面にズルイ所のあり、其廉潔がる裏面に金を欲がる所は、よい兄弟分ちやよ。佐々木を軍人にして三浦の經歷を積ましたら今の觀樹將軍で、三浦をして佐々木の經歷に生きさせたらば、立派な蒙古王が出きたぢやらふよ

◇何、原の度胸は見上げたものぢやと謂ふて居たとか、高蛇的に議會を解散したのがエライトハツヘ其邊が藥の利き目といふものぢやらふてノー

創作

熱光の下を（十八）

曉谷

「だけど、僕はまだ質屋に行つた經驗はないが……。お阿母にでも行つて貰ふかね。」

「えゝ。さうして貰ひませう。」

お前は斯う淋しく言つた。私は夫から本家に行つてお阿母を引つ張つて來た。お阿母の言ふのには、遣り繰りをするのは渡世をする方便だから些とも恥にやならない。何うしてもさうするより外に道がないのなら、質物を入れときなされ今手許に持ち合せがないから何うも仕方がない、と言ふのだ。取敢ず金を作つて貰つた。

私は其金を見ると感激して了つた。其時のお前は救世主か何ぞの樣に尊く思はれた。

心盡しと言ふものは嬉しいものだと泌み〴〵感じた。貧乏しても宜いから ── と言ふのは此の心持を掛け捉り掛けられたりすることだつた。

[illegible] 遁ることは出來なかつた。私は非常な勢で働いた ── 働いたと言ふ方が適切な位に、稼具に汚れて稼いだ。正月までには是非纒まつた金を拵へて置かないと、何時でも「淋しい」と俗に言ふ收入の少い時の用意が餡なかつた。方々の圖案までも引受けて、徹宵して繪筆を運ぶ事が何日となくあつた。お前は膠を煮たり、繪具を摺つたりしてゐた。火鉢の炭火を掻き起し作ら眠れた機で府睡りすることもあつた。

私は此間に働きと言ふものゝ淋しいことを痛感した、それと同時に人間が幾等懸命に働いても、働いても追つ附かないほど悲慘 ── 私はこの言葉が嫌ひだが、恐らく此の場合之程適切な言葉を見出せない ── な樣なこともあるまい。

「結婚したら藝術は生れない」と誰だか言つたが、私は結婚して子を生んで、ウンと生きる事の悲苦しいことを感じ詰めなければ人間の心を抉るほど力強い作品は生れまい、と考へた。

「睡たいだらう。お寢み。」

「え、え。起きてますワ。睡たくありませんの。」

「お前がさうして働いて呉れると俺も何だか力強くなつて來るよ」

こんな會話を交はし作ら、お前が小さなカップに盛つてくれたポートワインの一杯で口を潤した。

正月には間も無かつた。

又一つの心配なことがあつた。私達はお前の實家に初正月の贈り物をしなければならなかつた。鮭を一尾に粽入りの品を幾つか用意して置かねばならぬ。手許が窮屈な丈けに、之が亦妙に私の氣を苛立たせるのであつた。

「何だつて世の中は斯う五月蠅んだらう。形式張つてるんだらう。實にやり切れない。」大きな吐息を吐いて獨語を言ふやうな調子で嘆息すると、お前の顏色も漠然に曇つて來る樣だつた。

「でも、これが慣例なら仕方がありませんワ。假令どんな苦しい目を見ても、する丈けのことをして置かないと人樣から笑はれますわ」

お前の主張は依然として、此の風儀を擁護することが能なかつた。

「何うせ、手元で工面が能なければ、江津の叔母さんにでも言へば夫位の都合は附きますから」

果は、少し氣色ばんだ調子に變つて來るのだつた。

或日、突然立野からお前の弟が訪ねて來た。義弟は文學が好きで私の書いた物は何でも讀んで呉れてゐた。で、自然手紙の往復も頻繁になつて居た。私の手紙に書いてある文句が、ひどく共鳴されたと見えて僕の日子の間に親しんでしまつた。職局に行き [illegible] 相手は商家だから [illegible] 行つても幸福だらうと言つたのも親だつた。

内外電報

在留邦人無防禦

加州排日一般情勢

加州一般の排日熱を見るに十一月二日の一般投票に於て新排日法案の成立すること疑ひなし [illegible] 熱の煽動に熱中し [illegible]（桑港來電）

米時局を重大視

華盛頓來電に依れば幣原大使より來る十一月二日施行さるゝ可き加州一般投票を中止す可く盡力され度しとの要求に接し排日問題を特に重大視するに至れり [illegible]（桑港來電）

反動的排日傾向

日本當局者の發明及び示威運動の報知連日米國に打電せられ居るが排日氣勢を緩和するの效なきのみか反つて排日を煽動する傾向なり（桑港來電）

排日對抗機を逸す

[illegible] 七萬五千弗を拋らんとせ [illegible] 日本人會も最近運動費を村並に演説會を行はんと期成會を組織せるが其の大勢を如何ともする能はず十一月二日の總選擧 [illegible] となすの外なき有様なり（桑港來電）

排日より寧ろ恐日

[illegible] るもあり以前排日運動にも今回は殆ど迫害を受けず排日的なるに起因するを以てなり（桑港來電）

條約廢棄拒絶

通商

[illegible] ン氏は議會の要求せし某國際間の [illegible] 斯かる要求は國際間に全く矛盾するの結果を見るべし [illegible]（華盛頓來電）

外人土地所有反對

凡ゆる外國人に適用

[illegible] 外國人土地所有反對は獨逸國人に適用せざるべから [illegible]

別様手段を執らん

排日對抗運動微弱

[illegible] の成立することは最早疑ひなき [illegible] 案外不氣なり二三小規 [illegible] ざるを以て其の勢力微弱 [illegible] 地契約をなすを禦ぐ [illegible] 人に借地權を剝奪さるべき [illegible] 共同契約の手段 [illegible] に至るべし（桑港來電）

米國商品激落す

[illegible] 會社は何れも物價の下落を [illegible] 廣告したり [illegible] アメリカのデパートメントストーアたるワナメーカー [illegible] 紐育の米國洋毛 [illegible] 價格の下落を廣告せり [illegible] 戰前の狀態に復歸せん [illegible] 三割以上下落したるが [illegible]

紐育の爆發事件

[illegible] ウォール街に於て恐るべき爆發を打ちたる殺傷者の持主を知り得べしと [illegible] もせざる馬の持主を發見 [illegible] 認め居れり（桑港來電）

佛國首相決定す

[illegible] ミルラン內閣の [illegible] ミルラン氏に就任 [illegible]

メソポタミヤ軍優勢

[illegible] は一般良好に向へりナワは [illegible]

波蘭軍ク市占領

波蘭軍は北部戰線に於て進出し事實上クライド市を包圍し市占領は近きにありと（倫敦來電）

露國休戰を急ぐ

對波要求殆ど拋棄

リガ來電に露國代表の聲明に依れば莫斯科政府は波蘭に對し軍隊の縮少武器引渡軍需品製作中止等の多くの要求を拋棄し休戰條約を急ぎ居れり（倫敦來電）

講和不調と冬季戰

露國委員の聲明

露波講和會議の露國西亞主席委員は一の休戰條約を聲明して曰く波蘭は同條件を承諾せざるべからず然らずんば露國は冬季戰を開始すべし然れども這は勞農政府の避けんと欲する所なりと（リガ來電）

過激派波蘭人殺戮

過激派は波蘭ウイルナ占領同二千の人民を殺戮せり其多くは波蘭人なり（倫敦來電）

東鐵共同管理乎

在支那露國公使領事等の待遇停止に依り惹起せる東淸鐵道附屬地の處分問題は列國の重要なる問題とされ居れり　目下の形勢にありては東淸鐵道は列國の共同管理となる可きが如し（北京來電）

天津露國租界引渡

天津の露國租界は露支兩國官憲の間に其受渡を了し第三特別管理として支那行政の支配下に歸せり（天津來電）

露國の隙に乘ず

支那東支鐵道回收策

在支那露國公使領事等の待遇停止に就ては露國公使ゴクシエフ氏より二十四日文書を以て支那政府に抗議の回答をなしたれば問題は既に一段落の形となれるも善後策問題として殘れる東支鐵道附屬地等の處分問題は關係列國の間に極めて重大問題となりつゝあり尤も附屬地の處分に關しては二十三日の四國公使會議に於て英米兩國公使が本國政府の訓電に接せざる爲具體的決定を見るに至らざりしが米國公使は二十四日本國政府より日佛兩國公使と一致の態度を執るべしとの訓電に接したるやにて目下の形勢より判斷すれば結局列國の共同管理となるべきが如し東支鐵道の處分に至つては重大且複雜にして支那政府は露國の混亂に乘じて完全に利權回收すべく今春以來交通部當局と在京中のホルワット將軍其他當事者との間に秘密に協議を重ね支那側提出の第一條件たる鐵道管理權を讓渡するの件は露國側に於て承認したるも第二條件として提出せる東支鐵道に關する露支間の協約第二條に照し五百萬兩を支那側に交附すべく若し現金を以て交附し能はざる場合には東支鐵道の資本として支那側の持ち株たらしむべしとの要求は露國側承諾せず屢折衝の上露國側讓歩し二百萬兩と支那側の持ち株となすことに折合たるも將に調印せむとする際に至り支那側に異議起り是を拒絶したるを以て協議遂に纏まらず一時交渉を中止せり其後時局の變動ありて內閣更迭し交渉は其儘となり居る爲支那政府は今回公使等の待遇停止を機會とし東支鐵道の實權を手中に收めむとしつゝあり而も一方關係列國の是に對する態度は容易に一致せざるが如く米國側は共同管理を希望し實現し

佛内閣全部留任

佛國前大統領デシャネル氏は重態なり [illegible]（巴里來電）

佛前統領重態

巴里來電に依れば新首相ミルラン內閣員は新首相ズューレージュー氏の下に全部留任したり（倫敦來電）

坑主坑夫委員會見

炭坑大聯合會實行委員と炭坑主中央同盟會委員は商務に於て會見すべしと（倫敦來電）

國庫證券

八千萬圓發行

政府は今回各種事業支辨の爲め五分利附國庫證券八千萬圓を發行するに決し二十八日官報を以て公表する筈なるが條件左の如し（東京來電）

一、發行價格八千萬圓　一、發行期限大正九年九月二十八日より十月八日迄　一、償還期限大正十二年九月一日　一、利率年五分　一、應募申込期日大正九年十月十六日　一、拂込期日大正九年十月十一日　一、券面額面二十五圓、五十圓、百圓、五百圓、一千圓、五千圓、一萬圓の七種　一、應募申込場所各取扱銀行及各郵便局（郵便局は額面一千圓以下に限り）

高等官陞叙

廿七日左の通り陞叙さる

朝鮮總督府事務官　外事課長　松永武吉

同　遞信局技師　岡本桂次郎

同　勸業模範場技師　橋本左五郎

咸鏡北道知事　上林敬次郎

慶尚北道知事　藤川利三郎

忠淸北道知事　張憲植

陞叙高等官一等（各通）

第七八四期檢閲

步兵第七十八聯隊にては來る二日より第四期檢閲を實施すべく當日は平壤より步兵第三十九旅團長岩崎初太郎少將來城臨場すべしと

興鐵株主總會

解散決定す

重役間の意見一致せる朝鮮興業鐵道株式會社は既報の如く二十八日臨時株主總會を開きたり開會場所は東拓京城支店內にして午後一時開會出席重役は吉田英三郎、原勝一、牧山耕藏、神田長平、津田鍛雄、白完爀諸氏にして問題は（一）本社を京城に移轉の件（二）會社解散の件（三）解散に伴ふ清算の件等なるが解散に決定するは確實にして確定の上は更に來る十一月下旬最後の定時臨時總會を召集し株金拂戻しを出定すべく拂戻し金額は多分四圓七十五錢位の見込みなりと

商議聯合會

第二日

議論四川進捗遲々

全鮮商業會議所聯合會の第二回目は二十八日午前十時から開會した出席議員は前日の如く他に本日は私設鐵道に關する問題が擔ぎ出される日とて總督府からは田中商工課長、鐵道部監理課長深澤修氏、同工務課長新田留次郎氏等の顏が見えてゐた

前回迄は左程でもなかつたが今度は大分論客が多い故か事毎に議論が沸騰して賑やかだ。本日午前中の問題即ち釜山提出の第五號議案「京釜京義兩線複線工事を速成すること」「私設鐵道の速成」二項に就ても提案者たる釜山水野議員の說明後、谷仁川が立つて複線の速速杯は吾々の力では足りぬから若し遣るなら議會にでも出せ然らずんば撤回せよ」と一蹴したので水野釜山が立つ松本京城が立つ夫から總督府側の說明がある。彼れや此れや甲論乙駁火を散して午砲が鳴つても一向休み相な氣配がなかつた。

是れでは同部の議事を豫定日數で終了するのは六ケ敷い昨日の午前中から本日の午前中迄終了した件數は正味三問題に過ぎぬ有様だ

救濟資金回收成行

鮮內各地方の救濟資金回收は漸く順調に赴りつゝあるもの如く平安南北道及京畿道等に於て過般開催されたる郡守會議に於ては之を主要問題として研究したるもの如しと

稅關長會議第二日

稅關長會議第一日は午前十時より前日に引續き開會せられたるが協議事項左の如し

京取延長問題

京城現物市場の取引期間延長問題は未だ具體的に進捗を見ざるも同問題が市場當局と關係者間に於て研究されつゝある事は事實なり然れども此問題を延長して地方持株の吸收を爲すも大半は京仁の間に集中されつゝある狀態なれば市場取引高を豫想の如く多からしむるに困難なるべく殊に期間延長に依り當局の豫想すべきは當然なるを以て期間延長も危險視しつゝある延取引の效果に就ての主要なる問題たるべしと

大阪より

大阪　一記者

近海航路　北部方面の [illegible] は漸次船腹に近寄るに逆れ [illegible] の荷動き益々衰況を加へ近海運賃は一齊に何れも軟調を呈し [illegible] 鋼貨の如き一時方面の引締となり北支兵庫の甲松は二百五十円と云ふ標準にて近海方面は木船に補助船 [illegible] 等の船は漸次減退し弱含み狀態を呈せる [illegible] が其標準値段は若松上海石炭三圓八十錢大連神戶豆粕十七錢當局三圓二十錢と何れも引締を告げたり。

傭船調談は殆ど杜絕の狀態なりしが最近外人筋が波西士以東向け短期傭船に亘り短期のチヤタ一成立は多少小康を呈し最近島濤丸が五圓三十錢の成約ありしを關鍵として鉄製の手合せ成立せしが其標準値段は歐航片道六圓世界一般航路六圓北米往復五圓波西士以東五圓近海三圓五十錢と何れも保合を呈し居れり。

清酒鈍狀　春來極めて不況なりし清酒も需要期に入らば多少復活すべく期待されしも財界は依然沈衰し生產も亦過剩の氣味にて格別値上がりの氣配も見へず只種々に變り物にて十駄七石三斗に近き底値より四、五十圓方の引返しを見るに至り目下の處上物にて四百圓內外にて取引せられ居るも一時に暴騰せし此種の貨物が氣後の關係上漸次品薄となりし結果に何等他に强硬材料なく無貨物冷卸等の取引一向商談なく從つて價格の標準立ち難きも先づ六百圓見當向き石七十五圓見當にて今日之れを賣却せんとせば二の價格にても買手なく買入れんとせば買手なく目先九年度酒の原料米漸落のため增稅を加算するも莫大新酒の方原價幾分安きは自然相場も伸び惱み風物なり

久留米絣

產地は春季大不況當時悲慘たる商狀に陥り相場暴落して賣買中絕となり其間滯貨機業家は續々倒產の有様を呈したるも近來弗々補充注文ある由にて著しく產額減少せる今日にては需給の均衡を得相場も去る五月の最安値よりは一割五六分方の引返しなりと。

栗商人打擊甚大

京城府內に於ける栗商人の受たる打擊は頗る大なるもの如く既に整理時代に入れるものすらあり貳は近く慘狀を呈すべく觀測するものあるが平壤方面に於ては早くも此の形勢を見越し各方面地方に逆送し辛ふじて大損害を免れあるものなりと

古賀長官動靜

[illegible] 古賀拓殖局長官は二十七日 [illegible] 入京せる [illegible] 廿八日午前十時三十五分京城發に南山に向ひ同地にて [illegible] 二十九日午前十一時三十五分 [illegible] 京する筈なりしが何れ十月一日當地を出發し大田に向ひ湖南線を巡視し五日釜山發の豫定なりと

部局長會議

定例部局長會議は二十八日午前十一時より第一會議室に於て開催水野總監以下各部局長臨席し官署長會同事項等を議し正午散會せり

淨法寺師團長檢閲

淨法寺第二十師團長は二十九日第三期檢閲の爲二十三日は富平兵營に出張步兵第七十九聯隊の檢閲を施行

全鮮實業家大會

京城在住有數實業家を中心とする全鮮實業家大會は來る十月十一日を以て京城に於て開催すべく既に全鮮七十ケ所の實業家に通知狀を發したり

日之出小學旅行隊

日之出小學校職員生徒百三十名は十月二日南大門發列車にて開城に修學旅行を催し同日歸京すべしと

人事

▲佐藤大郎氏（日報社長）廿七日午後六時五十分入京

▲古賀、三記者（努働日報）入京中の處同刻東上

▲山崎軍大佐　同刻馬山へ

▲佐藤存樹氏（新任地方法院長）午後八時入京

▲淺田賢介氏（新任覆審法院長）同刻入京

▲柿原琢郎氏（新任監獄課長）同刻入京

▲爲安次郎氏（滿鐵理事）三十日來京の筈

▲中村正一氏（滿鐵囑托工兵大佐）朝鮮軍司令官乘務を負ぜり

▲奧田賀態氏（龍山旅團長）二十八日南平へ

▲三宅驥一氏（理學博士）二十八日朝退京

▲古城朝鮮（殖產會社取締役）同上

▲藤平壞覆審法院長　同上

▲五味平壤覆審法院部長　同上

▲杉村同地方法院檢事正　同上

風塵録

▲二十六日の本社の觀菊會の戲劇中に京城名物の電燈の停電、撒水の斷水、電話交換手の橫着等の行列を仕組みて、例の蝶々會一流の諷刺で戲劇化したので、觀客は破る許りに拍手喝采して、やんやと囃めきたてた、以て市民が如何に是等京城の缺陷に對して不平を抱いて居るかが明かになつた、當局者の中にも此中に交つて居つたものもあつたらう、如何なる感がしたか聞いて見たい▲本社の京電攻擊に對して痛快を叫ぶ投書が來る以て市民が如何に京電に不平を抱いて居るかが判る、是れでも木本クンが反省しないと忍耐强い市民の勸告も破裂して木本クンに切腹を迫るかも知れん用心すべしである▲總督府醫院の芳賀院長と森安醫院長との確執反目は久しく傳へられて居つた所であるが、兩者は成敗となつて今回、兩方とも辭職と云ふことになつた是れて總督府醫院も一片付きと云ふもので、又是れで京醫派の勢力は衰へ、大學派の天下となるであらう、新任院長は志賀潔と云ふ內科の博士で北里研究所の權威で赤痢菌發見者として有名な人である▲朝鮮のやうな傳染病の多い所には最も適任であらう

株式界

二十七日から商銀と實銀とが株式取引所に上場することになつたと云ふ何でも其の沿革に就き出した結果に依ると二ケ月と云ふことだけの分別とは知らぬが何でも取引の利かの期も一方受渡しの前を見に暫くかゝつて來たから頭をしてゐる者は例の諸取引の延ばしてもどうなつたかと思ふ此頃で行つたら是もなかなか出來ないと云ふ、何れにしても仲買の主が隨分悠長に進捗しない爲にヨボ化するのだらう、何とか是れでもする方法を發見していたいのだ、それにしても物を拵らへて貰ひたいと思ふ

商況

廿八日大阪入電前寄

銘柄	前寄
大株	九九、〇〇
同新	九七、九〇
郵船	一三五、〇〇
同新	五六、九〇
商船	七二、七〇
同新	[illegible]
鐘紡	二〇一、三〇
同新	一八八、〇〇
東紡	七二、七〇
京取	[illegible]
上	[illegible]

二十八日算定値段

銘柄	算定値段
京取	一九、〇〇
殖鐵	一三、〇〇
拓新	一四、〇〇
亞新	二六、〇〇
同銀	二〇、〇〇
鮮新	三四、〇〇
寶銀	九、〇〇
漢銀	三四、〇〇
鮮土	一二、〇〇
朝紡	一四、〇〇
滿毛	一四、〇〇

京株市場出來値（廿八日）

銘柄	前場	後場
京取 引寄	一九、〇〇	一九、〇〇
同	一九、一〇	一九、一〇
殖新	二二、八〇	—
東新	二六、一〇	—
仁取	—	一六九、五〇
鮮銀	三四、五〇	—
實銀	八、七〇	—
漢銀	三四、〇〇	—
鮮土	二〇、〇〇	—
朝紡	一三、七〇	—
滿平	一三、八〇	—
京電	—	一八、三〇

Other issues listed (no trades, marked —): 同新、殖銀、商銀、同、同新、鮮一、東拓、同新、瓦電、取引、東亞、朝煙、朝郵、殖鐵、中鐵、同新、滿鐵、同新、朝紙、朝粉、同新、東畜、朝皮、朝肥、東實

出來高

廿七日後場 七〇〇株

廿八日前場 四四〇株

累計 四、四九〇

仁川期米特電

九月二十八日前場

Columns: 寄, 高, 安, 止, 公 (by 節; 當限, 中限, 先限)

一節: 二、三五　二、三八　二、三六　二、二五　二、二〇
二節: 二、〇五　二、一〇　二、〇〇　二、〇〇　二、〇五
三節: 二、〇〇　二、〇三　一、九五　一、九五　一、九八
四節: 一、九九　二、〇一　一、九五　一、九七　一、九九

九月二十八日後場

當限 二四、〇〇　中限 二四、四〇　先限
一節: 二〇、三二　二〇、三三　二〇、三八　二〇、三六　二〇、三〇
五節: 二〇、二〇　二〇、三五　二〇、三〇　二〇、一〇　二〇、二七

仁川米豆取引所仲買人

𠆢仲買店

電話 一九九・七五〇・三二六

東京期米特電

九月二十八日前場

中限止め 二十五圓五十九錢

先限寄附 二十五圓二十九錢

先限止め

大阪期米特電

九月二十八日前場

當限 二六、五七　中限 二六、九〇　先限 二五、六八

九月二十八日後場

Columns: 一節 … 十節 (前場); 一節 … 六節 (後場). 當限 二六、五八　中限 二六、八五　先限

禁酒謹告

拙者從來酒を嗜み爲に奇行脫線續出し果ては近來健康を害するに至り候に就ては決然本日より酒と別れを告げ候事に致し候間今後全く眞面目に奮鬪仕候間倍舊の御引立願上候

大正九年九月廿五日

社內　柴田越浪

三面論壇

不安な京城電車

不熟練と亂暴な運轉振り 事故の頻出は當然の歸結

一市民（寄）

秋季皇靈祭の當日午後三時過ぎ清凉里から電車に乘て東大門附近迄來たら間近に電車が一臺停車して何事かを手入れ中の樣子であつたが其分の方へ乘換て乘れと車掌が言ふので乘換後進行すると間もなく急に停車したが車掌は急に飛降りてボールトの拔けたのを拾得して從又々進行を繼續する事となつた其電車は車輪のタイヤーが片減りして非常に

不愉快

な音響を傳へて居るのみならず車臺の下廻りの各部附屬物が弛緩して今にも金屬物の一部が脫落して何か事故でも惹起せねば好いがと不快と不安に堪えなんだのである殊に先程車掌が拾ひ上げたボールトはブレーキロックに取附けてあつたもの丶如く推せらるゝので急に停車する事能はざる等の事なきかと一層不安に堪えなんだが不幸にして其事實が現出したのである夫は其電車は東大門を通過したが澁滯なく前進するので何か操車の都合上其儘斯く運轉するのかと思ひ早く歸宅が出來ると喜んで居たら程經て途中線路に停車したのでブレーキの機能を失ふた事が判明したのである依つて僕等が下車仕樣とすると車掌が頻りに制止するので其儘乘つて居ると驚いて

逆行し

て車庫方面に廻入れするもの丶如く停留所附近のポイントを通過せんとすると間もなく異樣の音響を發して車內に大動搖を與へて停車した一時はどうなる事かと大に心配したが幸ひ脫線丈けで收まつたので蒼白な顏をした一行と下車したが此脫線の刹那車掌運轉手等は怕恐として飛び降り脫線車を見廻して車內の乘客の方は見向きもせぬのである其間に僕の子供は顫くはあつたが頭を硝子の柱でゴツン〱と二つ三つ打ち附けられて顫慄して居たが誠に不親切な仕方である之れだけならば我慢も出來るが見逃す事の出來ぬ亂暴な取扱振りを其時に其際二つも見たので僕は社會公衆の爲め危險なく會社に向けて苦言を呈せねばならぬ立場となつた事を甚だ遺憾とするのであるが過日の新聞に釜山で電車の

正面衝

突の事が掲載されて居る殊に京城でも最近大なる牛と電車が衝突して牛が角を折られて吟呻して居た事實もあるから一層此必要を感じて新聞紙を煩はす事とした僕は會社の誠意ある回答に接せん事を望むのである、脫線の原因はポイントクロッスシングの小石なり

ポイント、クロッスシングに小石の挾まり居る時は車輪の脫線する事確ならず故に鐵道等に在りてはクロッスシングの石を大禁物なりとし日々監視し且つ掃除せしむると聞く然るに當時は十數日を經過

小石に

妨げられ左方に入るべき車輪が入りたる爲め側線（東大門に向ひ）の車輪はガードレールを押し倒して脫線した事は實に明瞭なものであつたそして今一個同樣な石が…同一線路上に双方より電車を運轉せしむる懸念ある場合會社には何等保安の設備等なきや脫線車は上下（？）兩線に跨り居たる爲線路方面より來着したる電車ありたるが其儘其線路を折返し運轉せるを目擊せり此場合轎子に白の一線を入れたる從事員が一人餘分に乘込みたるを見受けたるのみ他に何等信號保安等に關し措置を執りたる樣子を見受けず餘は右二項は電車運轉上極めて不安に堪えないのである。

したらんと思はる丶母指大の小石が油に染み黑色となり小半身を現出したるものが周圍の土は落ちたる油が日光に照され堅く固着して小石と共に張り詰めたるが小石は軌條の尖端下にありたるが車輪に觸れたるもの丶如く手前の方の土を幾分掘り返したる擦然たる形跡が在つた要するに線路の右方

亂暴な

措置では無からうか場合によりては重輕傷者位を出す樣な懸念もないでなからうと思ふ之等に對し會社は平氣なのか一寸驚き落としたが脫線車は五十九號車であつた單線で同一線路を運轉して正面衝突したのは釜山に實例があるが複線で單線の取扱ひをする場合はより以上危險の程度は增帶であるにも拘らず白線が一本乘込んだ丈で同一線路を逆行ひらうと考へるなぜならば電車は汽車の如く急に退行する事が出來ないで前方に進行するだけの特質を有して居るものであるではないか（退行の場合は屋上の鐵絲を前後の何れかに回轉せざるべからざるは各人の知る所なり）夫れで同一線路を双方から

對向的

狀態に於て電車が運轉しても事故が發生せない以上會社は平氣なのか釜山では同一線路を双方より對向運轉したるに一方の運轉手の技術不良にして衝突せしめたとあるではないか京城では未熟の運轉手は居ないのか全線運轉上の規則とか官憲の取締とか云ふものは無いのか僕は眞に不安に堪えないのである。

又復巡査の大募集

成績不良で四國北陸は除外 近畿は餘り感服せず 歡迎される九州東北人

總督府にては巡査大增員の結果本年一月來警視廳の應援を受け東京を中心とし近縣にて三千人を募集し非常の良成績を占めたるを以て今回第二回の大募集を爲すこととなり九月上旬より四國北陸を除く內地各縣へ警部を派遣し巡査二千五百名の募集を開始したり殊に四國北陸を除きたるは四國人が巡査として不適任の爲め從來其成績面白からず巡査として最も成績好きは九州東北人にして近畿は餘り感服せず大阪人は第一言葉の威嚴なく之れ亦其資格に乏しく京都人は溫順に過ぎ不適任なり今回の募集も成るべく大部分を九州方面に求むる豫定にて猶ほ東北方面にも力を入れ居れり現今財界動搖後の失職者も多き模樣なれば其結果は良好なるべき豫想なりと（東京來電）

青木博士筆禍 不敬罪にて起訴されん

法學博士青木徹二氏は東方時論九月號に世相訪しきと題する論文を執筆したるが右は不敬罪或は皇室の尊嚴を冒瀆せるものとして起訴さるべし（東京來電）

平日に復す 昌慶苑の觀覽

李王職博物館動植物園は虎疫流行…

明治神宮祭 十一月一日舉行

明治神宮鎭座祭は愈十一月一日舉行さるゝ筈なるが本殿寶物殿を除く外本月下旬迄に全部竣成すべく目下內務省造營局に於て祭典執行準備中なり一方文部省にては獨り東京市民のみならず全國民に齊しく奉祝せしむべく尙ほ明治天皇陛下の御聖德を永く一般國民に知らしむる爲め十一月三日を期し全國各小學校及び各學校に於て講話を爲さすべしとの議あり目下文部當局に於て評議中なりと

論落の女カチユーシヤお葉（十一）

巧妙を極めた客釣りの一幕

鼻下長客―ボーイ―御葉が卍巴となつて活動

京都の驛を離るゝ頃に日がドツプリと暮れる都合になつて居る神戸の…食堂は夕刻から殆ど滿員の有樣で…

或監視を

火蓋を切

異性を魅

茫乎して

沈默の內

…「之れでよし」とお葉は自ら客に向つて挑戰を試むのである。

拉致された鮮商

危き虎口を脫し歸る

元間島普通學校訓導にて今は會寧貿易會社龍井出張の店員となり居る禹命立といふ鮮人は商用を以て九月十九日龍井を發し乘馬にて會寧に向ふ途中龍井を距る約二里餘七道溝にて不逞鮮人年頃は二十前後のもの二人二十五歲位のもの一人突然途を遮して現れ矢低に拳銃二發を放ちたるより禹命立は吃驚し馬より飛びおりたるに一人の鮮人は直に馬に跨りて一發を加へ之を逸し二人の鮮人ピストルを突付け左右より擁して禹命立を東良村方面に拉するにも山路を辿り汝は日本の狗なり上海の假政府は汝等の誰々に死刑を命じ居れるを以て發見次第殺害すべしなぞと脅迫文句を列べ着衣を剝がれたるに止まり被害額は差まで大ならざれども…

怪美人

奉天滯在の 實は女子獨立團の首領

不逞鮮人の跋扈は依然として絕へず、彼等の上海假政府を有する假政府とは脈を通し黨員は常に各地方に潛入し種々の…去る十九日夜上海より來奉し目下奉天江の島町旅館…米國人フレベー方の留守宅に潛在せる…當年二十六歲位の…

將校に扮し

不敵の曲者 公金を騙取す

七月七日午後一時半西伯利出征…チジンカン駐屯松山步兵第二十二聯隊第三大隊の衛兵所內に入り來れる將校マントを着し軍帽を目深に冠れる一將校あり居合せたる安永伍長に對し保管金庫を第三大隊本部に持參する樣命じ該金庫を受取り其儘姿を晦ましたり…一萬七千八百圓…（松山來電）

郡守射殺犯人逮捕

許多の餘罪を自白す

去る六月一日平安北道昌城郡守…を射殺されたることは既報の如くなるが…去る二十二日江界署の手に依つて主犯者李成國及共犯者李相…を逮捕したるが右犯人は去る五月同郡に於て憲兵を射殺せる兇行をも自白したり…更に二十六日滿浦警察署の手に逮捕されたる爆彈犯人三名は…

京城神社の秋祭り

例年の如く盛大に執行

京城神社大祭も愈々切迫せるが今年は豐作物の豐穰と財界の落着に…例年の如く盛大に行ふべく廿七日大祭に關する氏子會を催し種々の協議を遂げたり

自働電話には新白銅は駄目

新五錢の白銅は從來の五錢白銅に比して小形なる爲め之を自働電話に…

小よしの受けた 眉間の掠傷一萬圓也

其の一 靜養軒に嚙まれて千登世の解散

京城券の置屋として相當に指を折られて居た旭町の千登世が何を思つてか本月初旬以來バタ〱と家を片付け抱妓十三人の內千登世の妹小萬と雛妓の榮丸目下妊娠中の若江を除く十人は大部分居中へ今收丈けが…

大亂痴氣

を演じた一…

逆上方に

警察沙汰

と迄ならう…

虎疫未た去らす 新敵更に現はる

情氣を棄てよ緊張せよ 市民が警戒を要するは今後 初秋は傳染病の跳梁季

天高ふして馬は肥ゆ…

鮮人間

にはチブス、猩紅熱…

奔命に

心身の

保全上

間島の不逞首魁捕はる

不逞鮮人團の一派なる國民會南部地方支部長…

六千圓の穴が悉皆片附いた

京城神社の歲出入豫算は約一萬三千圓にして…

僞造行使犯人

有價證券（三） 京都に捕はる

…（下關來電）

混入虎菌は一箇月で死ぬ

糞尿肥料は試驗の結果安全

京城に於ける虎列拉流行の爲め京…

フルヰム

▼大正館

男の熱血

脚名（上）「コブテツドソーン」



本社主催觀劇會 見物する觀客と…

三面拔萃帖

●…三百六十九名
●哈爾賓では伊太利サーカス…
●大連の…
●仙人境…
●入人組…
●義和の…
●十八の…
●大覺寺…

本社電話番號 編輯用三、三一八番 營業用三、三一九番

小栗判官照手姫 (八十三) 旭亭樓山口演

愈武藝大會の開始

スルト、バラ〳〵〳〵ツと向ふから飛び出して來つた一疋の狼、如何さま鍛師にでも追はれて來たものゝ遊びない、サア大變だと思ふと、孫兵衛直省になつてトツトと逃げ出し、其處に大きな立木のあつたを幸ひ其れへ登つて四邊の動靜を見下して居る、兵助大八庄司の三人も此の猛獸を見た時にハツと思ひ、度逆に逃げは致しませんが岩陰に隱れたか一人の若いのが來の眞中に突立つて居る、それは太郎でございます、處へ狼が飛んで來たから、サ、危ないと孫兵衛が思つて居る間に、狼は太郎の頭をパツと飛び越える、太郎はニコリ〳〵笑ひながらヒラリ狼の方へ振向き又狼がパツと飛び越えたから、此方も同じくクルリと振向き、決して彼れに後を見せない、狼の方では後を見せたら直に咬つからうといふ心算と見え五六度ピヨイ〳〵ピヨイ〳〵飛び越えて居ります中に太郎が例の拳を固め、飛び掛つて來る狼の横面を一つ打擲いた、流石の猛獸も此の腕力には敵しかねて、脆くもゴロリと其處に轉がり、又起き上らうとする奴を、反對に太郎の方から飛び掛つて、突然兩顎へ手を掛けると 太「久しぶりで斯んな事が出來た」と云ひながら、例の通りベリ〳〵と口を引裂いた、處へ又三疋、バラ〳〵と驅けて參りましたが、仲間が其處に倒れたと見て四邊の血汐をベロ〳〵と嘗め、オーツと吼えると見る〳〵十五六疋の狼が現はれた、兵助大八庄司は驚いて「オイ〳〵太郎」何うする積算だ、早く逃げろ」太「イヤ心配には及びません、久しぶりで斯んな獵に出ツ逢して好い心持ちだ、マア見て在つしやい」兵「見て居るたつて對手一人で退治られるか」太「大丈夫でございます」と飛び來る狼をポカリ〳〵と拳固で打倒す餘り強いので、流石の狼でも是りや叶はないと思つたか、バラ〳〵と逃げて終つた、始終を見屆けた孫兵衛ビツクリして木から降りて來て 孫「どうも驚きましたな、貴客のマア強い事は殆ど人間にはない位でございませう、眞正に大した御力、是で私も安心致しました」太「何う安心した」孫「明神樣の武藝の爭ひに貴客が出たら、何も得物を持たないで、大抵の者は打倒しておしまひなさいませう」と孫兵衛が太郎の膂力に驚き、笹谷峠を越えて稲井村の六右衛門方へ來て、此の話をすると、六右衛門の喜んだ事何の位だか知れない、六「如何でございませう太郎さんとやら、私に一ツ貴方の力量を見せて戴きたいものでございますが」太「好うございます、安心の爲め御覧に入れやう」と庭にあつた伊豫の飛石にヤツと手を掛けると地に半埋まつて居る奴をウル〳〵と引出し目よりも高く差上げて、一癖り廻はつて、元の處へ靜かに置いた、此の力量には六右衛門初め居合す者皆舌を卷いて驚いた斯ういふ豪傑が來て下されば今年こそ此方の勝ちになるだらうと喜んで居る間に十五日、稲井明神の境内へ終日よりも集まつたる武藝者、稲井村笹谷村の左右に別れて立合ふ事になり朝から夕方まで勝敗が無ります、前の勝負は五分〳〵でございましたが、八ツ頃になると笹谷の方が勝の村に持つて行かれさうになつて終つた「サア敵四人の衆に出て貰はなければならない、四人の内で何方が先に御出で下さる」兵助が「右公が先へ出る」弟の大八郎「イエ兄さん貴方は取つて置きにして下さい、私が先へ出ます」庄司が「マア〳〵私を先へ出して下さい」兄弟先を爭ふを見て、庄「貴方がまだ御出になるまでの事はございますまいから